令和５年度シラバス（家庭）　学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

教科(科目)	家庭(保育基礎Ⅰ)	単位数	２単位	年次(コース)	２年次　(選択)
使用教科書	学校教育図書『保育基礎』				
副教材等	学校教育図書『保育基礎ワークノート』				

1　学習目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2　指導の重点

(1) 保育の意義や方法，子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。

(2) 子どもを取り巻く課題を発見し，保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

(3) 子どもの健やかな発達を目指して学び，保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。・人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。

・家庭生活における諸問題を把握し、その解決策を考え、自ら工夫し、問題に取り組む能力を育てる。

3　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
・子どもの発達や生活の特徴、保育､福祉や文化などについての知識を体系的･系統的に身につけている。 ・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	・ 子どもを取り巻く課題を見つけ,保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために，思考を深め，適切な判断や工夫,表現をする力を身につけている。	・ 子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち,地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。

4　評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能　a	思考･判断･表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
評価の観点	・子どもの人格形成における保育の重要性を理解している。 ・保育における保護者や保育者の役割、家庭での養育と集団保育の役割、情緒や社会性といった心の発達に関して、親や保育者との愛着形成が重要であることを理解している。 ・家庭での子育ての現状と課題､国の子育て支援の内容などについて理解している。 ・子どもの発達は､身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。	・自分の将来における子どもへのかかわりについて、職業や、かかわる内容などを具体的に考えられる。 ・子どもの保育の特徴や､保育者に求められる姿勢などについて要点をまとめることができる。 ・家庭での養育の課題を考察しながら、子どもの心身の安定を図るために、保育者としての月齢・年齢に応じた適切なかかわり方を具体的に考え、意見をまとめたり発表したりすることができる。	・子どもにかかわる職業について関心をもち､自身が希望する職業に就くために必要なことを調べるなど、情報を収集・整理しようとしている。 ・自身が保育者になることを想像しながら､子どもの心身の発達を促し､子どもの気持ちに寄り添うにはどうかかわるべきかなど､主体的に捉えようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ワークノートやワークシートなどの内容の確認 ・実習活動・グループ活動の取組の観察、実習作品や発表の確認 ・実習レポートなどの内容の確認 ・定期考査 などから､評価します。		

5　学習計画

月	単元名	時数	学習活動(指導内容)		評価の観点	評価方法
4 5	1章　子どもの保育	2	子どもにかかわる職業を知ろう！	・子どもにかかわる職業にはどのようなものがあるか、また、その意義を知る。 ・自分が将来どのような形で子どもにかかわりたいか考える。	a b c	・レポート ・ﾜｰｸﾉｰﾄ ・ﾜｰｸｼｰﾄ
		9	1　保育の意義 (1) 保育とは何か (2) 育ての心	・保育には、子どもの生涯の人格形成の基礎を培う重要な意義があることを理解する。 ・保育者のあるべき姿とはどのようなものかを考える。	a b c	
6		1	前期中間考査Ⅰ		a b c	・定期考査
		11	2　保育の環境 (1) 子どもが育つ環境 (2) 家庭の養育 (3) 様々な保育の場 (4) 保育ニーズの高まりと課題 (5) 集団保育の重要性	・家庭及び幼稚園、保育所や認定こども園について、それぞれの養育・保育環境の特徴や役割を理解する。 ・現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の問題、多様な保育のニーズに関する課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。	a b c	・レポート ・ﾜｰｸﾉｰﾄ ・ﾜｰｸｼｰﾄ
		1	前期中間考査Ⅱ		a b c	・定期考査
7 8		6	保育技術検定に挑戦	・子どもの表現活動によって培われる能力について知り、表現活動の重要性や意義を理解し、適切にかかわるための技術を身につける。 ・全国高等学校家庭科保育技術検定受験に向けて、適宜授業で実習を行い、技術を身につける。 ・造形表現技術４級　・音楽リズム表現技術４級	a b c	・実習ﾚﾎﾟｰﾄ ・作品 ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動 ・発表
		1 （夏季課題）	保育の課題に取り組もう！	子どもの気持ちに寄り添う保育者とは？ ・子どもの健やかな発達のために、保育者として適切な保育環境をどのように創意工夫していくべきか考える。 ・子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。	a b c	・レポート ・ﾜｰｸﾉｰﾄ ・ﾜｰｸｼｰﾄ
9		1	3　保育の方法 (1)保育の方法の基本	・子どもの健やかな発達のために、保育者として適切な保育環境をどのように創意工夫していくべきか考える。 ・子どもの心身の状態や発達に応じた保育の方法とその環境について課題を発見し、その解決に向けて考察し、工夫する。	a b	
		1	前期期末考査		a b c	・定期考査

月	単元名	時数	学習活動(指導内容)		評価の観点	評価方法
10	2章 子どもの発達	6	壁面構成制作	みずほ祭に展示する作品をつくろう！	a b c	・作品
11		10	子どもの発達の特性 (1) 発達とは何か (2) 乳幼児期の大切さ (3) 発達の共通性 (4) 発達の個人差 (5) 発達と環境	・ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 ・発達には順序性・連続性・方向性・相互性という一定の共通性がある一方で、個人差が大きいことを理解する。 ・子どもが主体的に環境にはたらきかけ、発達していくために、保育者などが応答的にかかわることが大切であることを理解する。	a b	・レポート ・ﾜｰｸﾉｰﾄ ・ﾜｰｸｼｰﾄ
		1	後期中間考査		a b c	・定期考査
12		6	保育技術検定に挑戦	・表現活動で子どもの意欲を引き出し、心身を育むための、保育者としての適切なかかわり方を理解し、健康・安全を守ための技術を身につける。全国高等学校家庭科保育技術検定受験に向けて、適宜授業で実習を行い、技術を身につける。 ・言語表現技術４級　・家庭看護技術４級	a b c	・実習ﾚﾎﾟｰﾄ ・作品 ・ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動 ・発表
1		14	乳幼児の発育と発達 (1) 乳幼児の発育 (2) 乳幼児期の生理的特徴 (3) 乳お湯時期の発達の特性	・乳幼児期の発育について、各部位別の目安や評価法を知る。また、大人などと比較して、乳幼児期の発育の特性を理解する。 ・乳幼児期の生理的特徴について理解する。 ・乳児期・幼児期における感覚・運動機能、情緒、認知機能、言語、社会性の発達の特性について理解する。 ・子どもと大人ではもののとらえ方に違いがあることを知る。 ・愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 ・安全基地としての親の重要性について理解する。また，家族・きょうだい・友だちなどの対人関係と社会性の発達について考える。	a b c	・レポート ・ﾜｰｸﾉｰﾄ ・ﾜｰｸｼｰﾄ
2		1	後期期末考査		a b c	・定期考査

計 70 時間（50 分授業）

6　課題･提出物等

・ワークシートと学習ノートの記入状況
・実習等の作品及びレポート提出
・グループ活動と発表

7　担当者からの一言

少子高齢化に向かう日本においては，子どもは社会を創る未来です。子どもが心身ともに健やかに育つために，保護者による家庭での養育が最も重要であることには変わりませんが，社会の変化とともに，保育所をはじめとする保育・教育施設の「職業人」による保育・教育の果たす役割が大きくなってきています。

保育の原点である子ども理解に重点をおき，子どもの発達過程や生活の様子を具体的にイメージし、日頃から子どもに関する興味と関心をもち，子どもの健全な成長を図る能力と態度を育てましょう。

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（家庭）

教科(科目)	家庭(子どもの発達と保育Ⅱ)	単位数	２単位	学科(コース)	３年次（生活・福祉系列)
使用教科書	子どもの発達と保育（教育図書）				
副教材等	なし				

１　学習目標

子どもの発達と保育Ⅰの学習をふまえ、乳幼児の発達の特徴、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術について学び、子どもの健全な成長を図る能力と態度を身につける。

２　指導の重点

・乳幼児の生活の特徴と適切な養護の在り方、生活習慣の形成、環境整備、健康管理と事故防止などを理解する。
・乳幼児の保育の必要性と意義、保育の目標と指導の原理などを理解する。
・子どもの健全な成長に関心を持ち、かかわろうとする意欲や実際にかかわることができる能力と実践的な態度を身につける。

３　学習計画

学期	区	単元(主要学習領域)	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	子どもの生活 生活習慣の習得	乳幼児期における生活習慣の習得と意義について学ぶ。	１１	定期テスト 授業の取り組み
	中間Ⅱ	子どもの生活 子どもの食事 子どもの衣服	乳幼児期における生活の特徴と養護の在り方について学ぶ。	１２	定期テスト 授業の取り組み
	期末	子どもの生活 健康管理と事故予防	子どもの健康管理、発達段階に応じた安全教育の上養成を学ぶ。	１２	定期テスト 授業の取り組み
後期	中間	子どもの保育 保育の意義と目標 家庭保育と集団保育	家庭保育と集団保育の違いを学びながら、保育者の役割について学ぶ。	１７	定期テスト 授業の取り組み
	期末	子どもの福祉と子育て支援 子どもの福祉 子育て支援	子どもの福祉の理念について学び、子どもの福祉の基本的な考え方について学ぶ。	１８	定期テスト 授業の取り組み

計７０時間（５０分授業）

４　課題・提出物等

定期考査のほかに、レポートを課す場合があります。

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
乳幼児の発達の特徴、生活と保育などに関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、実践的な態度を身に付けている。	乳幼児の発達の特性や発達過程についての思考を深め、学習した知識と技術を活用して創意工夫する能力を身に付け、表現することができる。	乳幼児の発達の特徴、生活と保育などに関する技術を身に付け、適切に乳幼児とかかわることができる。	乳幼児の生活と保育などに関する知識を身に付け、保育の必要性と意義を理解している。

以上の観点を踏まえ、授業の取り組み（授業態度、積極性）、定期考査（学習内容の理解）、提出物などから総合的に判断し評価します。

６　担当者からの一言

将来、子どもを生み育てるために必要な知識・技術を積極的に学び、習得した知識・技術を実践できるようにしましょう。　（担当：勝海）

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（家庭）

教科(科目)	家庭(子ども文化)	単位数	４単位	学科(コース)	３年次（生活・福祉系列)
使用教科書	子ども文化（文部科学省）				
副教材等	なし				

１　学習目標

子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識と技術を習得させ、児童文化の充実を図る能力と態度を育てる。

２　指導の重点

・子どもの発達の特徴を理解し、児童文化財等の知識を学んだうえで、適切に子どもと関わる力を身に付ける。
・児童文化の充実・向上を図るために、進んで課題に取り組み、工夫する力を身に付ける。

３　学習計画

学期	区	単元(主要学習領域)	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	子ども文化とは 子どもと遊び 遊びと発達	子ども文化の歴史、遊びの意義を知り、遊びと発達の関わりについて学ぶ。	22	定期テスト 授業の取り組み 実習の取り組み
	中間Ⅱ	子どもと遊び 遊びの現状 遊びと遊具・玩具 遊びと伝承	遊びと遊具の関わり、遊具の遊び方や与え方などについて学ぶ。 保育実習①「さつまいも苗植え」	24	定期テスト 授業の取り組み 実習の取り組み
	期末	子どもと表現活動 子どもと文学 「語り・紙芝居」	子どもの表現活動として、造形表現活動、言語表現活動について学ぶ。	24	定期テスト 授業の取り組み 実習の取り組み
後期	中間	子どもと文学 児童文学 現代の子どもの生活と文化	子どもの表現活動として、音楽・身体表現活動、情報手段などを活用した活動について学ぶ。 保育実習②「保育園訪問①園児と交流」	35	定期テスト 授業の取り組み 実習の取り組み
	期末	子ども文化を支える場	子どもの遊びや表現活動を支える代表的な施設を取り上げ、その意義と活動について学ぶ。 保育実習③「さつまいもほり」 保育実習④「保育園訪問②読み聞かせ」 保育実習⑤「保育園訪問③身体を使って遊ぶ」	35	定期テスト 授業の取り組み 実習の取り組み

計１４０時間（５０分授業）

４　課題・提出物等

定期考査のほかに、レポートを課す場合があります。

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関心をもち、子どもの健全な成長のための環境作りを目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	子どもの健全な成長に関する子ども文化における諸問題の解決を目指して思考を深め、学習した知識と技術を活用して創意工夫する能力を身に付けている。	子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する技術を身に付け、適切に子どもと関わることができる。	子どもと遊び、子どもの表現活動、児童文化財などに関する知識を身に付け、子ども文化を学ぶ意義と役割を理解している。

以上の観点を踏まえ、授業・実習の取り組み（授業態度、学習活動への参加状況）、定期考査（学習内容の理解）、実習作品、提出物などから総合的に判断し評価します。

６　担当者からの一言

子どもの遊びや表現活動についての知識・技術を学び、習得した知識・技術を実践できるようにしましょう。保育実習に積極的に取り組んでください。　（担当：勝海）

令和５年度シラバス（家庭）　学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

教科(科目)	家庭(ファッション造形基礎Ⅰ)	単位数	４単位	年次(ｺｰｽ)	２年次(生活・福祉系列)
使用教科書	ファッション造形基礎（実教出版）				
副教材等	なし				

１　学習目標

・衣服の構成，衣服材料の種類や特徴，衣服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
・衣服製作やデザインに関する課題を発見し，ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
・衣生活の充実を目指して自ら学び，ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

２　指導の重点

被服製作に関する基礎的・基本的な知識の習得と技術の定着を重点に置き、日常の身近な衣生活などに関する課題を発見し、解決する力を身につける。

３　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
衣服の構成，衣服材料の種類や特徴，衣服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。	衣服製作やデザインに関する課題を発見し，ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	衣生活の充実を目指して自ら学び，ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

４　評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能　a	思考・判断・表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
評価の観点	衣服の構成，衣服材料の種類や特徴，衣服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。	衣服製作やデザインに関する課題を発見し，ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	衣生活の充実を目指して自ら学び，ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ワークシートなどの内容の確認 ・実習活動の取組の観察、実習作品の確認 ・実習活動のまとめワークシートなどの内容の確認 ・定期考査 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ワークシートなどの内容の確認 ・実習活動の取組の観察、実習作品の確認 ・実習活動のまとめワークシートなどの内容の確認 ・定期考査 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ワークシートなどの内容の確認 ・実習活動の取組の観察、実習作品の確認 ・実習活動のまとめワークシートなどの内容の確認 ・定期考査 などから、評価します。

５　学習計画

月	単元名	時数	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 5	第４章 和服の製作 第１章 衣服の構成	23	・縫製に関する用具や基礎的な事項を理解し，技法を習得する。 ・被服製作技術検定４級受検への練習 ・衣服に求められる着心地のよさを理解する。 ・衣服の２つの形状（平面構成衣服・立体構成衣服）や，既製衣料サイズ表示を学ぶ。 ・体型の特徴や動作によって適した衣服があることを学ぶ。 ・年齢や着脱によって生じる様々な変化や影響を理解し，適応する衣服をつくることができるようにする。	a　b　c a　b　c	・ワークシート ・活動の取組 ・実習作品 ・活動の取組 ・ワークシート
5	定期考査	1	中間考査	a　b　c	・定期考査

6 7	第４章 和服の製作 第３章 洋服の制作	24	・縫製に関する用具や基礎的な事項を理解し，技法を習得する。 ・被服製作技術検定４級受検 ・布地の種類や性質を理解し，それぞれの特徴に合わせた地直しや断ち方，縫い方を習得する。	a b c a b c	・活動の取組 ・検定結果 ・調べ学習（レポート） ・ワークシート
7	定期考査	1	中間考査	a b c	・定期考査
8	ホームプロジェクト		・「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解する。 ・生活の中から課題を見出し，個人単位で主体的に計画を立てて問題の解決をはかる。	a b c	・課題提出
8 9	第３章 洋服の制作 第４章 和服の製作	16	・裁断，縫製に関する基礎的な事項を理解し，技法を習得する。（刺しゅう） ・歴史の中での和服や，こんにちでの位置づけを理解し，伝統的な和服の意義についての理解を深める。 ・和服地である反物や，その長さの単位（着尺地），その他の名称など和服独自の伝統的な用語を学ぶ。	a b c	・活動の取組 ・実習作品 ・ワークシート
9	定期考査	1	期末考査	a b c	・定期考査
10 11	第４章 和服の製作	32	・和服の構成と製作に関する知識・技術を習得し，じんべいの製作をする。 ・作品に応じた適切な仕上げができる。 ・和服の製作を通して平面構成衣服についての理解を深め，基本的な知識・技術を習得する。	a b c	・活動の取組 ・ワークシート ・実習作品
11	定期考査	1	中間考査	a b c	・定期考査
12	第４章 和服の製作	12	・和服の構成と製作に関する知識・技術を習得し，じんべいの製作をする。 ・作品に応じた適切な仕上げができる。 ・和服の製作を通して平面構成衣服についての理解を深め，基本的な知識・技術を習得する。	a b c	・活動の取組 ・ワークシート ・実習作品
1 2	第１章 衣服の構成	24	・立体構成衣服と平面構成衣服，それぞれの形状の違いを学び，衣服を構成する要素の理解を深める。 ・洋服の形態（一部形式・上下二部形式）を学ぶ。 ・採寸の手順に加え，パターンを理解する。 ・洋服の種類に応じた適切な製作手順を身に付け，デザインを形にできる計画性と技術を向上させる。 ・アウターパンツの製作を通して立体構成衣服についての理解を深め，基本的な知識・技術を習得する。	a b c	・活動の取組 ・ワークシート ・実習作品
2	定期考査	1	期末考査	a b c	・定期考査
3	第１章 衣服の構成	4	・アウターパンツの製作を通して立体構成衣服についての理解を深め，基本的な知識・技術を習得する。	a b c	・活動の取組 ・ワークシート ・実習作品

計 140 時間（50 分授業）

6　課題･提出物等

・ワークシートの記入状況
・実習等の作品及びレポート提出
・被服製作技術検定４級

7　担当者からの一言

授業時数の半分以上が作品製作です。服作りの基礎知識と技術を、実習を通して身に付けます。作品が出来上がった達成感、充実感を一緒に味わいましょう。

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（家庭）

教科(科目)	家庭(ファッション造形基礎Ⅱ)	単位数	４単位	学科(コース)	３年次（生活・福祉系列)
使用教科書	ファッション造形基礎（実教出版）				
副教材等	なし				

１　学習目標

被服の構成，被服材料の種類や特徴，被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して関連する技術を身に付けるようにする。衣生活の充実向上を目指して自ら学び，ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

２　指導の重点

被服の構成を理解し、被服製作やデザインに関する課題を発見し、ファッションの造形を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。

３　学習計画

学期	区	単元（主要学習領域）	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	衣服の構成（立体構成衣服と平面構成衣服） 衣服の素材（衣服素材の種類） 洋服の製作（製作の基礎、製作例）	・立体構成〈小物製作〉 ・繊維、衣服素材の改質・加工、これからの衣服素材 ・洋服の製作〈アウターパンツ製作〉	２２	定期考査 実習作品 授業の取り組み
	中間Ⅱ	衣服の構成（立体構成衣服と平面構成衣服） 洋服の製作（製作の基礎、製作例） 衣服の素材（衣服素材の種類） ホームプロジェクト活動	・立体構成〈小物製作〉 ・洋服の製作〈アウターパンツ製作〉 ・パターンの種類と利用〈パターン製作と簡単な洋服製作〉 ・素材の種類の違い〈染色実習〉 ・日常の身近な衣生活などに関する課題の発見および解決〈SDGs〉	２４ 夏季休業	定期考査 実習作品 授業の取り組み レポートおよび作品
	期末	洋服の製作（製作の基礎、製作例） 衣服の素材（衣服素材の性能と選択）	・パターンの種類と利用〈パターン製作と簡単な洋服製作〉 ・衣服素材の性能（性能実験）	２４	定期考査 実習作品 授業の取り組み
後期	中間	洋服の製作（製作の基礎、製作例） 衣服の素材（衣服素材の性能と選択）	・洋服の製作〈シャツ・ブラウス製作〉 ・衣服素材の性能（性能実験）	３４	定期考査 実習作品 授業の取り組み
	期末	洋服の製作（着装） 洋服の製作（製作の基礎、製作例）	・着装の工夫〈ｶﾗｰｺｰﾃﾞｨﾈｰﾄ実習〉 ・洋服の製作〈ファスナー小物製作〉	３６	定期考査 実習作品 授業の取り組み

140 時間(50 分授業)

４　課題・提出物等

毎週、実習作品の進度・作業内容を確認し、提出期限を重視します。

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
被服製作・被服構成・被服材料などに関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	被服製作・被服構成・被服材料などについて、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し表現できる。	被服製作・被服構成・被服材料などに関する基礎的専門的な技術を身に付け、日常着を製作できる。	被服製作・被服構成・被服材料などに関する基礎的、専門的知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ、　授業の取り組み　・　定期考査　・　実習作品　他から、総合的に評価します。

６　担当者からの一言

授業時数の半分以上が作品製作です。服作りに関する総合的な知識を習得し、様々な服作りのテクニックを身に付けます。基礎力の充実に力を入れ、技術力を高め実践力を養います。

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（家庭）

教科(科目)	家庭(ファッション造形基礎 A)	単位数	２単位	学科(ｺｰｽ)	３年次(生活・福祉系列)
使用教科書	ファッション造形基礎（実教出版）				
副教材等	なし				

１　学習目標

被服の構成、被服材料の種類や特徴、被服製作などについて体系的・系統的に理解するとともに、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して関連する技術を身に付けるようにする。衣生活の充実向上を目指して自ら学び、ファッションの造形に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

２　指導の重点

被服製作に関する基礎的・基本的な知識の習得と技術の定着を重点に置き、日常の身近な衣生活などに関する課題を発見し、解決する力を身につける。

３　学習計画

学期	区	単元（主要学習領域）	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	衣服の素材（衣服素材の種類） 衣服の構成（人体と衣服） 洋服の製作（製作の基礎）	・繊維、糸、布 ・着心地、体型の特徴 ・縫製の基礎、布地の性質と扱い方 *〈洋裁の基礎技術〉*	１１	定期考査 実習作品 授業の取り組み
	中間Ⅱ	洋服の製作（製作の基礎） 衣服の構成（立体構成衣服と平面構成衣服） ホームプロジェクト活動	*〈洋裁の基礎技術〉* ・被服の構成による特徴の違い ・衣服製作のための人体計測 ・日常の身近な衣生活などに関する課題の発見および解決	１２ 夏季休業	定期考査 実習作品 授業の取り組み レポートおよび作品
	期末	洋服の製作（製作の基礎）	*〈洋裁の基礎技術〉*	１２	定期考査 実習作品 授業の取り組み
後期	中間	洋服の製作（製作の基礎） 洋服の製作（製作の基礎、製作例）	・基礎縫いの応用 *〈刺繍作品製作〉* ・洋服の製作 *〈アウターパンツ製作〉*	１８	定期考査 実習作品 授業の取り組み
	期末	洋服の製作（製作の基礎、製作例）	・洋服の製作 *〈アウターパンツ製作〉* ・３Ｒ *〈残布を使った作品製作〉*	１７	定期考査 実習作品 授業の取り組み

計 70 時間(50 分授業)

４　課題・提出物等

毎週、実習作品の進度・作業内容を確認し、提出期限を重視します。

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
被服製作・被服構成・被服材料などに関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組んでいる。	被服製作・被服構成・被服材料などについて、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し表現できる。	被服製作・被服構成・被服材料などに関する基礎的・基本的技術を身に付け、簡単な日常着、和服を製作できる。	被服製作・被服構成・被服材料などに関する基礎的・基本的知識を身に付けている。

以上の観点を踏まえ、　授業の取り組み　・　定期考査　・　実習作品　他から、総合的に評価します。

６　担当者からの一言

授業時数の半分以上が作品製作です。服作りの基礎知識と技術を、実習を通して身に付けます。作品が出来上がった達成感、充実感を一緒に味わいましょう。

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（家庭）

教科(科目)	家庭(服飾手芸)	単位数	４単位	学科(コース)	３年次（生活・福祉系列)
準教科書	令和版　はじめての「ぬう」と「あむ」（主婦の友社）				
副教材等	なし				

１　学習目標

手芸の種類と変遷，各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ，手芸品を創造的に製作し，服飾に活用する能力と態度を育てる。

２　指導の重点

服飾手芸に関する基礎的・基本的な知識の習得と技術の定着を重点に置きます。
創造的に手芸品を製作できる能力の向上を目指します。

３　学習計画

学期	区	単元（主要学習領域）	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	手芸の種類と変遷 手芸作品の製作 基礎刺しゅう	・手芸の種類と変遷について理解する。 ・基礎的な刺しゅうの技法について理解する。 ・基礎的な刺しゅうをすることができる。	２２	実習課題 授業の取り組み
	中間Ⅱ	手芸作品の製作 基礎刺しゅう	・基礎的な刺しゅうの技法について理解する。 ・基礎的な刺しゅうをすることができる。	２４	実習課題 授業の取り組み
	期末	手芸作品の製作 刺しゅう（応用作品）	・基礎的な刺しゅうの技法をふまえ、創造的に応用作品の製作することができる。	２４	実習課題 授業の取り組み
後期	中間	手芸作品の製作 編み物	・基礎的な編み物の技法について理解する。 ・基礎的な編み物をすることができる。	３５	実習課題 授業の取り組み
	期末	手芸作品の製作 編み物（応用作品）	・基礎的な編み物の技法をふまえ、創造的に応用作品の製作することができる。	３５	実習課題 授業の取り組み

計１４０時間（５０分授業）

４　課題・提出物等

・項目ごとに実習作品の提出があります。（提出期限を重視します）

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①　関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
手芸の種類と変遷，各種手芸の技法などに関心をもち、意欲をもって学習活動に取り組むことができる。	手芸の種類と変遷，各種手芸の技法などについて、課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し表現できる。	手芸の種類と変遷，各種手芸の技法などに関する基礎的・基本的技術を身に付け、簡単な手芸品を製作できる。	手芸の種類と変遷，各種手芸の技法などに関する基礎的基本的知識を身に付けている。

このため評価は、具体的には次のものを対象にします。
・授業の取り組み・実習課題　他
また、１年間の評定は、前期・後期の年間を通じて、上記内容を総合的に判断して決定します。

６　担当者からの一言

授業時数のほとんどが作品製作です。手芸の基礎知識と技術を実習をとおして身に付けていきます。手芸品が出来上がった達成感、充実感を一緒に味わいましょう。　（担当：勝海　渡辺）

令和５年度シラバス（　家庭　）　　学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

教科(科目)	家庭（フードデザインⅠ）	単位数	２単位	年次(コース)	２年次(生活福祉系列)
使用教科書	出版『フードデザイン』Food Changes LIFE				
副教材等	教育図書『ＬＩＦＥおとなドリル』、　教育図書『ﾌｰﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝﾜｰｸﾉｰﾄ』 教育図書『ビジュアルクッキング』				

1　学習目標

家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ，実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して，食生活を総合にデザインするとともに食育を推進し，食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

2　指導の重点

（1）栄養，献立，調理，について体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けるようにする。
（2）食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し，食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
（3）食生活の充実向上を目指して自ら学び，食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を身につけるともに、それらに係る技能を身に付けている。	・　食生活を総合的に捉えて計画･実践するための課題を見いだし、思考を深め、食育の推進に寄与するために、創意工夫し表現する能力を身に付けている	・食生活に関する諸問題に関心をもち、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする意欲と態度を身に付けている。

4　評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能　a	思考･判断･表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
評価の観点	・栄養，食品，献立，調理，テーブルコーディネートなど，フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し，実践できる技術を習得している。	・　多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め，食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに，家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって，課題を解決できる。	・　人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために，進んで学ぶ姿勢を持ちつつ，食材を適切に選択し作るところから食べるところまでを総合的に捉えて，主体的に計画・実践することができる。また，習得した知識や技術を家庭や地域で積極的に活用することにより，食育の推進に他と協働して取り組むことができる。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポート、プリントなどの内容の確認 ・実技テストの分析 などから､評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペーパーテストの分析 ・レポート、プリントなどの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから､評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題や発表などへの取り組みの観察 ・レポート、プリントなどの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから､評価します。

5　学習計画

月	単元名	学習活動(指導内容)	授業時数	評価の観点	評価方法
4 5 6 7	1．栄養素と消化・吸収 2．各栄養素のはたらき	・人間が食品の摂取により栄養をどのように取り入れていくか，食物が体内でどのように消化・吸収され，活用されていくかを把握させる。 ・各種栄養素の特徴と体内でのはたらき，代謝について理解させる。 ・アミノ酸評点パターン，アミノ酸スコアについて理解させる。 ・水とその他の物質について，役割やはたらきを理解させる。 ・調理実習	22	a a a a bc	定期考査 レポート、プリントなどの内容 振り返りシート
9		・「食事摂取基準」の考え方を理解させる。 ・食事計画にあたっては，「食品群別摂取量のめやす」を利用できるようにする ・調理実習	8	abc bc	定期考査 課題レポート、プリントなどの内容 振り返りシート 調理実習の記録
10 11 12	何をどれだけ食べる？	・何のために調理するのかを理解させる。 ・おいしさにかかわる条件を知り，調理にいかせるようにする。 ・だし，味覚効果，料理の触感や温度，素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解し，調理にいかせる。 ・計量の方法，食品の切り方，調理方法の基礎，加熱調理器具ごとの特徴などについて，具体的な知識と技術を身につけさせる。 ・調味に関する基本的な知識を習得させる。 ・調理上の基本的事項を習得し，調理実習や家庭生活の向上にいかせる。 ・基礎的な題材から始めて，品数を増やしたり，工程が多いものに移行していくなど，段階的に調理技術の向上をはからせる。 ・栄養バランス，年齢，性，目的を考慮した食事の献立について，要点が理解でき，日常食，行事食など用途に適した献立が作成できる。 ・調理実習	18	abc abc abc abc abc abc bc	定期考査 調理実習の記録 レポート、プリントなどの内容 振り返りシート

	1 2 3	1．食事の意義と役割 2．食を取り巻く現状 3．食と環境について考えよう	・食事の基本的な意義を理解させる。 ・家族，友人等集団での食事を共にすることの意義など，食事に関わる利点を再確認させる。 ・現代の食に関する問題点を把握させる。 ・健康維持のために食事がどのように大切かを理解させる。 ・各国の食料自給率を通して，日本における食料生産の問題点を考えさせる。 ・市場にあふれる食材の背景にあるものに気づき，食料の価値を考える。 ・地球環境の保全，生物連鎖と食生活との関わりについて理解し，環境保全，資源の有効活用の意識を高め，日常の生活行為を見直させる。 ・調理実習	22	abc abc abc abc abc bc	定期考査 レポート、プリントなどの内容 調理実習の記録 発表などへの取り組み 振り返りシート

計７０時間（50分授業）

6　課題･提出物等

・実習課題の提出　ホームプロジェクトのレポートなど

7　担当者からの一言

健康で人生を過ごすためには良い食生活が重要ですが、バランスの良い食事とはどのようなものか、それを整える力をつけるため、栄養などの知識を学び、実践に生かせるように学びます。また日常食が作れるようになるため家庭でも積極的に調理の練習をしてください。

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（家庭）

教科(科目)	家庭(フードデザインⅡ)	単位数	４単位	学科(コース)	３年次（生活・福祉系列）
使用教科書	フードデザイン cooking&arrangement（教育図書）				
副教材等	ビジュアルクッキング（教育図書）　フードデザインワークノート（教育図書） 生活ハンドブック（第一学習社）				

１　学習目標

栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。

２　指導の重点

・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、目的や条件に応じて食生活を総合的にデザインする。
・食事の意義と役割についての理解をもとに、食生活を支える産業の社会的な意義と役割を理解する。
・食生活に関する諸課題を把握し、進んでその問題に取り組み、科学的・論理的な方法で解決しようとする意識を高める。

３　学習計画

学期	区	単元（主要学習領域）	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	食品の特徴（１） 調理実習	・食品の特徴、調理上の性質及び加工品を理解できる。また、実習･実験によって、その理解を深める。	２２	授業の取り組み 実習課題 定期考査
	中間Ⅱ	食品の特徴（２） 調理実習	・日常食の調理に必要な知識と技術の定着をはかる。そのため、食物調理技術検定合格を目指す。	２４	授業の取り組み 実習課題 定期考査
	期末	食品加工の目的 調理実習	・食品の性質を活かした加工法を学ぶ ・食品群別摂取量の目安に沿った献立作成をし、家庭で実践をする。	２４	授業の取り組み ﾎｰﾑﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ 定期考査
後期	中間	食品の選択と取り扱い 食品の衛生と安全 郷土の食文化 調理実習	・食品表示の重要性を理解する。 ・安全な食生活について理解を深める。 ・地域の食の専門家より郷土の食文化について実習を通して学ぶ。	３５	授業の取り組み 実習課題 定期考査
	期末	調理とおいしさ 料理様式と献立 テーブルコーディネート 調理実習	・おいしさに関わる要因を知る。 ・料理様式とﾃｰﾌﾞﾙﾏﾅｰについて知る。 ・供応食の調理とテーブルコーディネートの実践に取り組む。	３５	授業の取り組み 実習課題 定期考査

計１４０時間（５０分授業）

４　課題・提出物等

・調理実習のレポート作成、提出　　・長期休業中の課題

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①関心・意欲・態度	②思考・判断・表現	③技能	④知識・理解
食生活に関する諸問題に関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むことができる。	食生活を総合的にデザインすることを目指して思考を深めることができる。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートに関する技術を身に付けている。	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートに関する知識を身に付け食事の意義と役割を理解している。
以上の観点を踏まえ、授業の取組み（態度、積極性）、定期考査、提出物などから総合的に評価します。			

６　担当者からの一言

２年次で学習したフードデザインⅠをより発展的に学習します。日頃から「食」について興味・関心を持ち、家庭でも日常的に調理をすることで知識・技術の向上に努めてください。　（担当：渡辺）

令和５年度シラバス（家庭）　学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

教科(科目)	家庭(家庭基礎)	単位数	２単位	年次(コース)	１年次(必修)
使用教科書	実教出版『図説家庭基礎』				
副教材等	実教出版『図説家庭基礎学習ノート』、　教育図書『ＬＩＦＥおとなガイド』				

１　学習目標

・家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ，家族や家庭生活のありかた，子どもと高齢者の生活と福祉，生活の自立のための衣食住や消費生活・環境などの基礎的な知識・技術を身につける。
・生活課題を主体的に解決し，生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。

２　指導の重点

・人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。
・家庭生活における諸問題を把握し、その解決策を考え、自ら工夫し、問題に取り組む能力を育てる。

３　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考･判断･表現	主体的に学習に取り組む態度
・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え，家族･家庭の意義，家族･家庭と社会との関わりについて理解を深め，生活を主体的に営むために必要な家族･家庭，衣食住，消費や環境などについて理解しているとともに，それらにかかわる技能を身につけようとしている。	・生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価･改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけようとしている。	・さまざまな人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活を創造し，実践しようとしている。

４　評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能　a	思考･判断･表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
評価の観点	・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え，家族･家庭の意義，家族･家庭と社会との関わりについて理解を深め，生活を主体的に営むために必要な家族･家庭，衣食住，消費や環境などについて理解しているとともに，それらにかかわる技能を身につけようとしている。	・生涯を見通して，家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価･改善し，考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけようとしている。	・さまざまな人々と協働し，よりよい社会の構築に向けて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，地域社会に参画しようとするとともに，自分や家庭，地域の生活を創造し，実践しようとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・学習ノートやワークシートなどの内容の確認 ・実習活動の取組の観察、実習作品の確認 ・実習活動のまとめワークシートなどの内容の確認 ・定期考査 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習ノートやワークシートなどの内容の確認 ・実習活動の取組の観察、実習作品の確認 ・実習活動のまとめワークシートなどの内容の確認 ・定期考査 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・学習ノートやワークシートなどの内容の確認 ・実習活動の取組の観察、実習作品の確認 ・実習活動のまとめワークシートなどの内容の確認 ・定期考査 などから、評価します。

5　学習計画

月	単元名	時数	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4 5	第1章 自分らしい生き方と家族	7	・ライフステージごとの発達課題や，ライフイベントについて理解する。 ・生活設計の方法と生活資源の重要性について理解する。 ・人生を考えるためには経済設計が重要であることを理解する。 ・青年期の課題である生活的・経済的・精神的・性的自立について理解し，自覚できるようにする。 ・職業につく意義や多様化する就業形態について理解する。また，家庭や地域での労働についても重要であることを理解する。 ・夫婦共働きが増えている状況，それを支える社会的支援の必要性を労働力調査や生活時間と関連させて理解する。 ・男女共同参画社会の推進について理解する。 ・これからの家庭生活や社会のあり方について，改善方法を挙げることができるようにする。 ・さまざまな結婚，家族・家庭の意義や機能について理解する。 ・時代とともに変化する家族・家庭について学習し，現在の家族の抱える課題などを多角的に理解する。 ・家族に関する法律の理念や現在の動きについて理解する。 ・夫婦，親子，扶養，相続に関する民法について理解する。	a b c a b a b c a b c a a　c a b c a b c a b c a	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査
5 6	第2章 子どもとかかわる	8	・10代の健康の大切さを理解する。 ・妊娠の成立から誕生までを理解することにより，その重要さを認識する。 ・子どもの身体の成長について，大まかな流れと特徴を学理解する。 ・子どものものの見方・感じ方には子ども独特の世界があることを理解する。 ・発達には人とのかかわりやふれあいなど，豊かな経験が必要なことを理解する。 ・すこやかな成長には生活習慣の形成や健康管理，安全対策が重要であることを理解する。 ・子どもの食生活・衣生活について理解を深める。 ・遊びの影響や種類を理解し，今日の課題解決に向けた行動を挙げることができるようにする。 ・子どもとの交流を通して，遊びが豊かになるよう工夫することができるようにする。 ・子どもを生み育てる意義について理解する。 ・子どもの人間形成における家庭の重要性を理解する。 ・家庭保育と集団保育，子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。 ・子どもには，すこやかに育つ権利があることを理解する。	a a a a b c a a b c a b c a b c a b c a	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査
6	定期考査	1	中間考査	a b c	
7	第7章 住生活をつくる	2	・住まいの機能や地域性豊かな住まいの文化を理解する。 ・生活様式の変化や二つの起居様式について理解する。 ・日本の伝統的な住文化ついて理解する。 ・平面図の読み取りができるようになる ・生活の機能に応じた住空間の構成を理解する。	a b c a b c	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査

7	第7章 住生活をつくる	6	・バリアフリーやユニバーサルデザインの住まいとはどのようなものか理解する。 ・ライフステージによって，住まいに求めるものが違ってくることを理解し，事例を参考にライフステージによる理想の住まい方を考える。 ・健康的な住まい環境における基本的な知識を身につける。 ・住まいの清掃やメンテナンスについて学ぶ。 ・自然災害や人為的な災害と対策について理解する。 ・家庭内事故と安全な住まい環境について理解する。 ・長く住み継いでいくための方法について理解する。 ・環境に配慮した住まいや住環境にするための方法を理解する。 ・住生活の現状や住宅政策を理解する。 ・住環境の役割について学び，地域社会とのかかわりも含めて，よりよい住環境を理解する。	a b c a a b c a a b c	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査
8	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動		・「ホームプロジェクト」の意義と実施方法について理解する。 ・生活の中から課題を見出し，個人単位で主体的に計画を立てて問題の解決をはかる。	a b c	・課題提出
8	第8章 経済的に自立する	3	・家計の構成や，収入と支出の特徴を理解する。 ・近年の家計の変化について理解する。 ・給与明細の見方を学習し，給与の使い方をシミュレーションする。 ・生活設計とかかわらせて，長期の経済設計の必要性について理解する。 ・資産運用について学ぶ。 ・国民経済と国際経済から家計について学ぶ。 ・安定した経済活動を営むために，家計管理が重要であることを理解する。	a a b c a b c a	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査
9	第9章 消費行動を考える	6	・「契約」について学ぶ。 ・消費行動における意思決定のプロセスや，生活情報の活用について学ぶ。 ・多様化する販売方法について，それぞれの特徴を理解する。 ・さまざまな問題商法や，被害にあった場合の解決方法について理解する。 ・消費生活にかかわる法律・制度を理解する。 ・さまざまな支払い方法のしくみや計画的にお金を使うことの大切さを理解する。 ・消費者の権利を守るためのしくみや法律を理解する。 ・消費者の権利と責任について理解する。 ・地球的規模の環境問題に対して，世界や日本の現状を理解する。 ・循環型社会をめざすための法律について学ぶ。 ・私たちの生活と環境問題との深いかかわりに気づき，自らの行動や選択を環境に配慮したものに変えることができるようにする。	a b c a b c a a b c a a a b c	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査
9	第5章 食生活をつくる	1	・現代の食生活の傾向を理解し，健康的な食生活の必要性に気づく。 ・栄養とからだのつながりを理解する。 ・栄養素と水のはたらきを理解する。	a b c	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査

9	第5章 食生活を つくる	1	・食中毒の種類や予防法等を理解し，衛生的な調理や食事管理ができるようにする ・食品添加物の種類やその使用の目的について理解し，安全性についても考えることができるようにする	a b c	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査
9	定期考査	1	期末考査	a b c	
10 11	第5章 食生活を つくる	15	・炭水化物（糖質・食物繊維）の働き，炭水化物を多く含む食品の特徴（でんぷんの種類や変化など）についての基礎的知識を身につける。 ・脂質の構造（中性脂肪・グリセリン・脂肪酸）と，それぞれの働きについてを理解する。 ・食品によって脂肪酸組成が違うことを知り，バランスよく摂取することの大切さを理解する。 ・たんぱく質をつくるアミノ酸について，特に必須アミノ酸の重要性を理解する。 ・たんぱく質を多く含む食品（魚介類・肉類・卵・豆類等）についての特徴について理解する。 ・ミネラルの種類や，からだの中での働きについての基礎的知識を習得する。 ・ミネラルを多く含む乳製品や海藻等についてもどのようなミネラルが豊富であるのかを理解する。 ・ビタミンの種類と，それぞれの持つからだの中での働きについての知識を習得し，野菜・くだもの・きのこ等のビタミンを多く含む食品について理解する。 ・甘味料・塩味料・酸味料・うま味料，香辛料等の種類について理解する。 ・コーヒーなどのし好食品，菓子などの食品，加工食品の種類と特徴について理解する。 ・特別用途食品や保健機能食品等についての種類と特徴，表示などについて理解する。 ・食品の旬や食品を選択する際に必要な品質表示の見方，また，選択する際のポイントがわかり，食品を適切に選択することをできるようにする。 ・私たちの食生活が世界とつながっていることを認識する。 ・安全面，環境面，新しい技術など多角的な視点でこれからの食について考えることができるようにする。 ・食事摂取基準を理解し，何をどれくらい食べるのかを理解する。 ・食品群別摂取量のめやす，食事バランスガイドを，生活の中で使い分けることができるようにする。 ・食事摂取基準や食品群別摂取量のめやすを考慮しながら，家族や状況にあわせて献立を作成できるようにする。 ・調理の流れ，調理操作を理解し，調理技術を習得する。	a b c a b c a b c a b c a b c a b c a a a b c a a a b c a b c	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査 ・実習の取組
11	定期考査	1	中間考査	a b c	
12	第3章 高齢者と かかわる	4	・高齢社会の現状を理解するとともに，高齢者への理解を深める。 ・高齢者の心身の変化と個人差，生活について理解する。 ・高齢者の介護について，介護される高齢者も介護する者も対等な関係にあることを認識する。 ・介護保険制度のしくみやサービスの内容，地域住民間での助け合いの活動などを理解する。	a a b c a b c a b c	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査

12	第４章 社会とかかわる	2	・福祉の考え方を理解する. ・社会保障制度は行政を介した助け合いであることを理解する. ・地域福祉とその課題に関心を持ち，活動に参画する姿勢を養う. ・ボランティア活動に興味・関心が持てるようにし，実際の活動につなげる.	a a a b c	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査
1 2	第６章 衣生活をつくる	10	・人と衣服のかかわりについて，その背景や風土などを考えながら理解する。 ・衣服の機能を理解する。 ・例をもとに衣服の快適性とユニバーサルデザインについて理解する。 ・衣服の安全性を高めるための方法について理解する。 ・繊維の種類と特徴について理解する。 ・糸と布の種類・構造について理解する。 ・衣服素材の性能について理解する。 ・繊維の改質・加工の技術が発達し，さまざまな特徴を持つ繊維が生産されていることを理解する。 ・衣服の入手から処分まで，衣生活を計画的に考えられる方法を理解する。 ・衣服を購入する際の表示の見方がわかる。 ・湿式洗濯・乾式洗濯などの洗濯の方法や注意点を理解する。 ・界面活性剤の働きについて理解し，適切な使用ができる。 ・家庭洗濯の方法とポイントを理解する。 ・漂白と増白について理解する。 ・アイロンを適切にかけられるようになる。 ・衣服を適切に保管・管理することができようになる。 ・衣生活と環境のかかわりを考え，環境に配慮した衣生活を営めるようになる。 ・衣生活が国際化する中，問題点を把握し，自分の行動を見直す。	a b c a b c a a a b c a c a a b c	・活動の取組 ・学習ノート ・ワークシート ・定期考査 ・実習作品
2	定期考査	1	期末考査	a b c	
2	生活設計	1	・家庭基礎の 1 年間の学習を生かして，自分らしい生き方を設計する。		

計 70 時間（50 分授業）

6　課題・提出物等

・ワークシートと学習ノートの記入状況
・実習等の作品及びレポート提出

7　担当者からの一言

家庭基礎を学ぶことで、一人の生活者としてしっかりと自立できるよう、家庭生活における基本的な知識と技術を身に付けましょう。興味と課題をもって積極的に授業に参加して下さい。